

北九州市立図書館の運営に関する評価

I 基本目標

1. これまでの図書館サービス(図書・資料の閲覧・貸出、レファレンス機能、情報サービスなど)をさらに充実させる。
2. 市民が抱える課題の解決を支援する。
3. 子どもの読書活動を積極的に推進していく。
⇒上記の内容を目指していくために、図書館職員や地域の人材など、これらの役割を担う人材の能力向上を図る。

II 令和元年度(平成 31 年度)事業目標

1. 図書館サービスのさらなる充実を目的に、障害者サービス・多文化サービスを強化する。
2. 市民の課題解決支援を目的に、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点からのサービスを充実する。
3. 子どもの読書活動推進を目的に、子ども図書館を拠点として、学校関係者の人材育成支援・子ども司書などの養成に取り組む。

III 目標に対する達成状況と総合評価

1. 図書館サービスのさらなる充実を目的に、障害者サービス・多文化サービスを強化する。
 - 本市においても増加傾向にある外国人市民を想定した図書館サービス(多文化サービス)を提供するため、外国人市民に対するアンケート調査で現行の図書館サービスの課題を把握したり、ガイドツアーの実施を通じて外国人市民の生の声を聞いたりできたことは、大きな前進であった。
 - 早速、アンケート調査やガイドツアーを通じて得た生の声を活かし、「やさしい日本語」及び外国語の利用案内リーフレットの作成や「やさしい日本語」で書かれた図書資料の収集に取り組むことができた。
 - 図書館のバリアフリー化には、これまでも取り組んできたが、初めて障害のある方と意見交換の場を持ち、多くの職員が「自らが貢献できることは何か」「工事を伴うような大掛かりなバリアフリー化でなくてもできることは何か」といった視点から、障害のある方の図書館利用について主体的に考える素地を醸成できたことは、「読書バリアフリー法」の成立に伴い、今後さらなる対応が求められる社会状況の中で、大きな収穫であったと言える。
2. 市民の課題解決支援を目的に、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点からのサービスを充実する。
 - 市内の各図書館において、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点での行事(講座や講演会)を 32 回、同視点での本の展示を 56 回行い、多くの利用者を獲得することができた。
 - 特に、病院と近い場所にある図書館での「健康・医療」についての情報提供や、複数の図書館で実施した中小企業診断士による無料の経営相談会の定期的かつ継続的な開催は、多くの利用者に喜ばれた。
 - ただ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、予定していた複数の行事を中止せざるを得なかったことは残念であった。
3. 子どもの読書活動推進を目的に、子ども図書館を拠点として、学校関係者の人材育成支援・子ども司書などの養成に取り組む。
 - 学校関係者が参加する学校図書館教育講習会において、学校における読書活動・調べ学習などの一層の推進を図るために設けた学校貸出図書セットや、図書・資料の学校への団体貸出など、学校向けサービスの説明を重点的に行った結果、団体貸出の利用者数が対前年比 17%増となるなど、子どもの読書活動を推進することができた。
 - 初めて、ブックヘルパー研修を 2 回、学校における読み聞かせボランティア研修を 1 回開催し、学校図書館職員などの育成支援を行うことができた。
 - 従来から行っている子ども司書養成講座の開催に加え、中高生自らが子ども図書館の企画・運営に携わる「ジュニア・サポーター」を新たに立ち上げるなど、子どもたちの図書館への関心や読書への意欲を大きく高めることができた。

まとめ

●令和元年度は、外部からの要望が大きくなってきた、障害者サービス・多文化サービスや、前年度開館した子ども図書館を拠点とした、子どもの読書活動推進につながる取組みが本格的に動き始めるなど、図書館サービス充実のための大きな一歩を踏み出すことができた。

●一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年2月28日から全ての図書館が急遽一斉休館となり、多くの利用者に不便をかけただけでなく、折角踏み出した大きな一歩の一部変更を余儀なくされたことは残念であった。

●とは言え、前述の通り、全ての図書館が目標の達成に向かって努力した結果、施策評価では50項目(うち1項目は平成30年度完了事業のため、令和元年度評価対象事業は49項目)のうち「大変順調である」のA評価が18項目(前年度6項目)、「順調である」のB評価が30項目(前年度42項目)、「やや遅れている」のC評価が1項目(前年度2項目)となり、順調な図書館運営を進めることができた。

●新型コロナウイルス感染症については、依然予断を許さない状況にある。長い目で見た時に令和元年度の出来事が、危機管理の事例として、更には図書館サービスの変革の契機として活かせるよう努めていくことが求められる。

外部評価

IV参考資料

【利用状況の変化】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
貸出者数	946,002人	1,029,447人	909,340人
貸出冊数	3,571,438冊	3,913,822冊	3,423,930冊
来館者数	2,496,853人	2,458,211人	2,276,653人
レファレンス件数	37,599件	38,852件	32,737件
人口1人当たりの貸出冊数	3.74冊	4.12冊	3.62冊

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年2月28日から市内の全ての図書館が一斉休館となった。そのため、どの館も例年と比較して、開館日数が30日程度少ない。

※例年利用者の満足度をはかるアンケートを3月に実施しているが、令和元年度は急遽図書館が休館となったため、実施できなかった。

北九州市立図書館では、「これからの図書館サービスのあり方」の中に示された 5 つの視点に立った取り組みを行っています。その具体的施策 50 項目の取組状況について、下記の基準を設けて評価を行います。

<評価の基準>

A	新たな取り組みが行われたり数値が伸びたりするなど、大変順調なもの。
B	継続的・安定的に取り組みが行われたり、数値が一定水準で維持されたりするなど、順調なもの。
C	予定通りに進まなかったり、数値が下降傾向にあったりするなど、やや遅れているもの。
D	全く進展がなかったり、取り組みが行われていなかったりするなど、遅れているもの。

※()内は、前年度(平成 30 年度)の評価

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
1.多様な施設とつながる図書館	(1) 文学館などの文化施設との連携	①(新)文化施設の情報発信	文学館、美術館、松本清張記念館などの文化施設への来館のきっかけづくりのため、文化施設の企画展情報を発信	<ul style="list-style-type: none"> ●中央図書館では、自然史・歴史博物館の特別展などの展示品として図書館資料を貸与し協力するとともに、展示品が掲載された図録の提供を受けた。 ●八幡図書館では、北九州芸術劇場と連携した連続戯曲講座を開催した。 ●子ども図書館では、下記の通り<u>文化施設の企画展と本の読み聞かせとのコラボという、一歩踏みこんだ戦略的な情報発信</u>を行った。 ・美術館の企画展「にじいろのさかな原画展」の開催に合わせ、特集コーナーを設置するとともに、美術館分館や子ども図書館において読み聞かせ会を 11 回開催した。 【参加者計 385 人】 ・漫画ミュージアムの企画展「やなせたかしの遊べる絵本展」に関連し、漫画ミュージアムにて出張読み聞かせ会を 4 回開催した。 【参加者計 253 人】 ●他にも、各館において、自然史・歴史博物館、美術館、文学館、漫画ミュージアムなど各種文化施設の広報物を図書館内に掲示したり、施設の催事に連動した図書資料の展示を行ったりするなど、多くの文化施設と連携し、新たな情報発信、相互協力による来館促進などができたため、大変順調と判断した。 	A (B)
		② (新)最寄りの文化施設の情報発信	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ●中央図書館では、松本清張記念館の特別企画展の展示品として図書館資料を貸与し協力するとともに、展示品が掲載された図録の提供を受けた。他にも文学館、美術館分館、芸術劇場などの発行する出版物の収集を行った。 ●子ども図書館では、松本清張記念館のカフェで、<u>西南女学院大学の学生が考案した「子ども図書館開館 1 周年の記念メニュー」を提供するなど、これまでにない手法の情報発信</u>を行った。 ●若松図書館では河伯洞、八幡図書館ではイノベーションギャラリーや響ホール、八幡西図書館ではひびしんホールやこどもの館、戸畑図書館では美術館、八幡南分館では長崎街道木屋瀬宿記念館など、各館で最寄りの施設の広報物を図書館内に設 	A (B)

内部評価
B (B)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
				置したり、施設の催事に連動して図書館行事を行ったりした。 ●これらにより、最寄りの文化施設と連携した情報発信をこれまで以上に多彩に行うことができたため、大変順調と判断した。	
		③(新)地元ゆかりの作家作品の充実	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催	●中央図書館の特設文庫「松本清張文庫」、子ども図書館の「本市ゆかりの児童文学者の顕彰コーナー」、小倉南図書館の「藤田博士顕彰コーナー」、若松図書館の「火野葦平コーナー」、戸畑図書館の「宗左近記念室」など、各館において、地元出身作家などのコーナーを設け、関連資料の展示を引き続き行っている。 ●中央図書館の北九州資料室を中心に、各館とも福岡県・北九州市ゆかりの作家の著作を積極的に購入し、充実を図っている。 ●はじめての絵本事業に、引き続き地元出身作家の絵本「あーそーぼ」を選定し、配布している。 ●これらにより、地元ゆかりの作家の蔵書の充実と顕彰が引き続き図られていることから、順調と判断した。	B (B)
		④(新)文化施設とのネットワークの構築	文化施設とのネットワークの構築を図るため、中央図書館も文化施設の館長会議に参加	●文化施設館長会議に引き続き参加して情報交換を行い、各施設の情報収集・発信を進めた。 ●文学館事務局職員が北九州の文学に関する情報発信を行える場を、毎月定例の図書館長会議の場で継続的に提供した。 ●これらにより、前年度同様文化施設とのネットワーク構築を進めることができたため、順調と判断した。	B (B)
	(2)他施設との連携	⑤大学図書館との連携	大学図書館とのネットワークの構築を図るため、 ・北九州市立大学や九州国際大学の図書館との連携の充実 ・市内にある他の大学図書館との連携の検討	●平成14年8月に北九州市立大学と、平成14年9月に九州国際大学と、それぞれ連携協定を締結し、継続的に相互利用を進めている。 ●特に令和元年度は、 ・11月に市内の <u>私立大学図書館を訪問し、大学生の公立図書館の利用目的や市民の大学図書館利用状況などについてヒアリングと意見交換を実施。</u> ・同月、市内の別の <u>私立大学図書館を図書館協議会メンバーと一緒に訪問し、大学図書館の実情を視察するとともに、意見交換を実施。</u> ●このように、これまでに無い新たな取り組みを行い、大学図書館との連携充実について一歩進めることができたため、順調と判断した。	B (C)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価									
		⑥ 大学との連携	大学図書館との連携に止まらず、大学教員などを講師に招いて、講演会や講座を積極的に開催	<ul style="list-style-type: none"> ●中央図書館、若松図書館、八幡図書館、八幡西図書館において、九州女子大学や九州国際大学などに協力し、実習の場を提供するなど、司書資格取得を目指す学生を積極的にバックアップした。 ●子ども図書館では、<u>・西南女学院大学が企画した絵本を使ったカルタ大会を開催。【学生スタッフ4人、参加者28人】</u> ・松本清張記念館のカフェに、<u>西南女学院大学の学生が考案した子ども図書館開館1周年を記念したメニューを提供。</u>するなど、<u>連携先を広げるとともに、新たな取り組みを展開</u>することができた。 ●門司図書館及び戸畑図書館では、九州工業大学の出前講座を活用して科学関連の講座を開催した。 ●中央図書館(カフェ)・小倉南図書館及び八幡図書館でも北九州市立大学とイベントの企画などについて連携協力を行った。 ●このように、新たな連携先の開拓やこれまでに無かった新たな取組みを進めることができたため、大変順調と判断した。 	A (B)									
		⑦ ネットワーク(連携)機能の充実	中央図書館が地区図書館や分館へ助言や指導を行い、市立図書館のネットワークを充実	<ul style="list-style-type: none"> ●全ての図書館の館長が参加する館長会議を毎月開催し、連携を図った。 ●地区図書館の選書担当者が参加して毎週開催する選書会議の場を活用して、新刊図書や推薦図書に関する情報はじめ図書館サービスに関する様々な情報を全ての図書館と共有した。 ●地区図書館や学校などで活動する<u>読み聞かせボランティアを整理し、ボランティアバンクを再構築</u>するとともに、<u>その情報を各地区図書館と共有</u>するなど、<u>子どもの読書活動推進のためのネットワークの強化</u>を図ることができた。 <p>【読み聞かせボランティア登録数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団体数</td> <td>36団体</td> <td>41団体</td> </tr> <tr> <td>個人</td> <td>12人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●これらにより、中央図書館を中心とした本市の図書館網をより強化することができたため、大変順調と判断した。 		H30年度	R元年度	団体数	36団体	41団体	個人	12人	17人	A (B)
	H30年度	R元年度												
団体数	36団体	41団体												
個人	12人	17人												
(3) 身近なネットワークの構築		⑧ (新)市立図書館における観光情報などの提供	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 <ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観 	<ul style="list-style-type: none"> ●中央図書館では、勝山公園で行われた歌舞伎の公演やラグビーワールドカップ事前キャンプ誘致などの大規模イベントに合わせた図書の企画展示を行い、来館者への情報提供を行った。 ●八幡図書館では、八幡東区役所が作成した皿倉八景のパネルと関連写真の展示や図書館職員が撮影した写真をもとに「八幡ウォーキングマップ」の展示を行った。 	B (B)									

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価																		
			光情報や地域情報を提供	<p>●若松図書館ではグリーンパークや高塔山、戸畑図書館では戸畑区の名所などのマップなど、各館において市内観光情報や地域情報などに関するチラシ・パンフレットの掲示やイベントに関連した図書の企画展示を行った。</p> <p>●これらにより、各図書館において市の魅力発信に努めることができたため、順調と判断した。</p>																			
		⑨ ひまわり文庫の充実	市民センターなどに設置した、ひまわり文庫の蔵書構成などの充実	<p>【ひまわり文庫の状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度末</th> <th>R元年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置施設</td> <td>128か所</td> <td>129か所</td> </tr> <tr> <td>配本数</td> <td>71,732冊</td> <td>67,312冊</td> </tr> <tr> <td>1箇所あたり配本数</td> <td>560冊</td> <td>522冊</td> </tr> <tr> <td>年間貸出者数</td> <td>25,756人</td> <td>19,800人</td> </tr> <tr> <td>年間貸出冊数</td> <td>52,297冊</td> <td>41,516冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>●八幡東分館の閉館に伴い、近隣の市民センターに新たにひまわり文庫を設置した。</p> <p>●市民センターからのリクエストや貸出しの傾向を反映し、ニーズの高い図書の購入・配本に努めた。</p> <p>●閉館した分館や一般室・児童室からの管理換えなどにより、図書の再活用とひまわり文庫蔵書の充実に努めた。</p> <p>●貸出人数・冊数は前年度より減少したものの、市民が身近に図書館の本を借りることができる場として配本の充実に努め、一定の利用がなされているため、順調と判断した。</p>		H30年度末	R元年度末	設置施設	128か所	129か所	配本数	71,732冊	67,312冊	1箇所あたり配本数	560冊	522冊	年間貸出者数	25,756人	19,800人	年間貸出冊数	52,297冊	41,516冊	B (B)
	H30年度末	R元年度末																					
設置施設	128か所	129か所																					
配本数	71,732冊	67,312冊																					
1箇所あたり配本数	560冊	522冊																					
年間貸出者数	25,756人	19,800人																					
年間貸出冊数	52,297冊	41,516冊																					
		⑩(新)貸出文庫登録施設数の増加	市民が気軽に本に接する機会を増やすため、幼稚園や保育所などの子育て関連施設や病院、高齢者施設などで利用されている貸出文庫の利用施設を増加	<p>【貸出文庫の状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度末</th> <th>R元年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置施設</td> <td>97か所</td> <td>92か所</td> </tr> <tr> <td>配本数</td> <td>19,725冊</td> <td>21,337冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>●令和元年度は、放課後児童クラブなど 6施設で新設したが、11施設が廃止され、前年度より 5施設減となった。</p> <p>●施設数は減ったが、新規設置のニーズには対応しており、保育所・幼稚園・放課後児童クラブなど子育て関連施設を中心に安定した利用がなされ、配本数は増加したため、順調と判断した。</p>		H30年度末	R元年度末	設置施設	97か所	92か所	配本数	19,725冊	21,337冊	B (B)									
	H30年度末	R元年度末																					
設置施設	97か所	92か所																					
配本数	19,725冊	21,337冊																					
<p>【内部評価の考え方】</p> <p>これまでも文化施設との連携には積極的に取り組んできたが、特に令和元年度は「他施設の展覧会と連動した読み聞かせイベント」「カフェでのコラボメニューの提供」など、連携の在り方・連携相手とも新境地を拓くことができた。また、図書館職員だけでなく図書館協議会メンバーも一緒に市内の大学図書館に直接足を運び、大学生と一般市民相互の公共図書館・大学図書館の利用状況を把握するなど、これまでにない新たな取り組みを行うことができた。さらには、地元ゆかりの作家作品の充実によるシビックプライドの醸成や、身近な読書環境である、ひまわり文庫や貸出文庫の運営も順調に行うことができたため、順調であると判断した。</p>																							

【外部評価】

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
2. 市民の課題解決を支援する図書館 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 内部評価 B (B) </div>	(1)レファレンスの強化	①相談内容のデータベース化	これまで長年積み上げてきたレファレンスの事例に、多くの市民が接することができるようにするため、相談内容とその回答をデータベース化し、ホームページで公開	<ul style="list-style-type: none"> ●中央図書館参考資料室を中心に各館で受けたレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに積極的に登録した。 ●登録件数:平成 30 年 254 件、令和元年 237 件。(100 件以上登録し、国立国会図書館から表彰を受けた) ●登録したレファレンスの内容については、市立図書館ホームページにレファレンス協同データベースのリンクを貼ることにより、随時、最新の内容にアクセスできるようにしている。 ●これらにより、レファレンス事例の積み重ねに努めるとともに、インターネットから容易にレファレンス事例にアクセス可能な状態を作っていることから、順調と判断した。 	B (B)
		②レファレンス担当職員の能力向上	図書館業務の基本となるレファレンスを担当する職員の能力向上を図るため、体系的な研修を計画、実施	<ul style="list-style-type: none"> ●国立国会図書館、文部科学省、福岡県立図書館などの主催によるレファレンスや郷土資料に関する研修に各館の職員が参加した。 ●研修で学んだことを活かして、小倉南図書館ではパスファインダーの作成に取り組み、八幡図書館では既存の調べ方マニュアルの更新を行った。 ●これらのことから、様々な機会を捉えてレファレンス担当職員が研鑽に励み、実務にも活かしていることから、順調と判断した。 	B (B)
		③レファレンス用図書・資料の充実	多様化・複雑化する市民ニーズに適切に対応するため、レファレンス用図書・資料を充実	<ul style="list-style-type: none"> ●各館において、各種レファレンス用資料(事典・辞書類、図鑑、統計類など)の新規購入や新版への更新、行政資料の寄贈受入れなどを行った。 ●このことにより、レファレンス用資料の充実に努めていることから順調と判断した。 	B (B)
	(2)特色ある図書館づくり	④(新)課題解決支援のための分野別配架と講演会などの実施	<ul style="list-style-type: none"> ●標準的な配架法である「日本十進分類法」を基礎にしながら、市民が抱えている課題に対応するために、テーマごとに図書・資料を並べたり、特設コーナーを設けたりするなど、市民が図書・資料を探しやすいような分野別 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども図書館において、引き続き、 <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習コーナー ・読書感想文特設コーナー ・夏の宿題お助けコーナー ・季節ごとの企画展示コーナー ・地元出身作家コーナー ・世界の絵本と地図のコーナー など、工夫をこらしたコーナーを設け、子どもたちの課題解決支援を行うことができた。 ●子ども図書館及び各地区館・分館に子育て支援コーナーを設置し、妊娠出産や育児・子どもの遊びなど関連本をまとめて配架し、利用しやすい環境を整えた。 	B (B)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
			配架の実施 ・市民のニーズに応じて、「健康・医療」、「福祉・介護・年金」、「子育て・教育」など、分野別に体系立てた講演会や講座などを実施し、市民の課題解決を支援	●小倉南図書館や八幡西図書館では相続・遺言講座、若松図書館や戸畑図書館では経営相談会、八幡図書館では健康講座、同じく八幡図書館や戸畑図書館では認知症に関する講座など市民の課題解決に役立つ講座を開催した。 ●その他、各館において、市民の課題解決に役立つ特定のテーマ(健康・医療、高齢者向け、認知症、ビジネス支援など)の資料を集めたコーナーの設置や館内展示に取り組んだ。 ●この通り、課題解決支援のための図書の分野別配架や講座の開催などに積極的に取り組むことができたため、順調と判断した。	
		⑤(新)地域の特性などを活かした図書館づくり	特色のある図書館づくりのため、各図書館が地域の特性や地域住民のニーズに応じた図書・資料の配架や講演会などを重点的に実施	●子ども図書館では、開館1周年記念イベントとして、 ・アニメーション映画監督の細田守氏を招いての講演会 ・同じく映画監督の樋口真嗣氏を招いての講演会 ・映画化された児童文学コーナーの設置 ・小倉昭和館での「シネマカフェ」の実施など、映画と児童文学の関係にスポットを当てた取組みを行った。 ●門司図書館、新門司分館では、高齢者の利用が多いため、人気の高い時代小説などの収集を充実した。 ●大里分館、八幡西図書館では、子育て世代や児童の利用が多いため、子育て支援関連本や子ども向けの学習漫画やクイズ本などの収集を充実した。 ●島郷分館では、併設の市民センタークラブ利用者に向けた趣味コーナー(パソコン、ヨガ、絵画、写真)を設置した。 ●八幡図書館では、大きな病院に隣接する特性を活かし、定期的に入院中の子どもたちを訪問して、読み聞かせを実施した。 ●門司図書館の郷土会による歴史講演会、小倉南図書館の地元写真家による講演会など、各地区館・分館でそれぞれの地域や利用者の特性に応じて、講座や講演会を開催した。 ●これらにより、それぞれの図書館において、地域の特性を活かした図書館づくりの取組みを進めることができたため、順調と判断した。	B (B)
		⑥(新)郷土資料の充実	地域の歴史や文化を次世代に伝えるため、地域の郷土資料を充実	●子ども図書館が実施する「はじめての絵本事業」に、引き続き地元出身作家の絵本「あーそーぼ」を選定し配布した。 ●各図書館において、購入及び寄贈により郷土に関する図書資料の受入れを行った。	B (A)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
				<p>●曾根分館で曾根干潟に関する本を受け入れるなど、地区館・分館においては、各館の所在区の特徴を反映した資料の収集に努めた。</p> <p>●子ども図書館の本市の産業や取り組みを紹介する「ふるさと発見コーナー」、八幡図書館の八幡製鐵所関連コーナーなど、各館において、郷土の特徴や地元ゆかりの作家などを紹介する特設コーナーを引き続き設置し充実に努めた。</p> <p>●これらにより、郷土資料の収集を着実にを行うとともに、市民に郷土の魅力を紹介する取り組みに努めていることから、順調と判断した。</p>	
		最寄りの文化施設の情報発信【再掲】(視点1②)	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信		
		地元ゆかりの作家作品の充実【再掲】(視点1③)	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催		
		市立図書館における観光情報などの提供【再掲】(視点1⑧)	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供		

【内部評価の考え方】

各種研修への参加や研修後のパスファインダー作成などの実践を通じて、職員のレファレンス能力の向上に引き続き努めた。また、各図書館の利用者層や近隣施設の立地状況、地域ニーズなどを、蔵書構成や行事開催に反映する努力を引き続き行った。加えて、子ども図書館において実施した、地元の映画館とも連携した、映画と児童文学の関係にスポットを当てた取組みなどは、特筆すべき成果であった。これらのことから、順調であると判断した。

【外部評価】

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価																		
3. 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 内部評価 B (B) </div>	(1) 子どもの読書活動の推進	①(新)子ども図書館の整備	北九州市子ども読書活動推進条例で定められた、子どもの読書活動の推進拠点となる「子ども図書館」を整備し、子ども図書館にふさわしい図書・資料を充実	●子どもの読書活動の推進拠点となる子ども図書館の整備は、平成30年12月22日完了。	—																		
		②(新)子ども図書館における子育て・家庭教育などの図書・資料の充実	子ども向けの絵本や図書・資料のみでなく、大人も利用できる、子育てや家庭教育支援用の図書・資料の充実	●子ども図書館の2Fに児童図書研究室を設け、平成29・30年度に引き続き大人向けの図書を収集するなど、家庭教育支援用の図書・資料の充実を図ることができたため、大変順調と判断した。 ※令和元年度末蔵書数5,520冊(平成30年度末:5,337冊)	A (A)																		
		③(新)「はじめての絵本」事業の実施	出生前の早い時期から子どもの読書に関心をもってもらうため、母子健康手帳の交付時に絵本を配布する「はじめての絵本」事業を実施	●出生前の早い時期から子どもの読書に関心を持ってもらうよう、母子健康手帳の交付時に絵本配布を行い、昨年度同様、99%以上の方に配布することができたため、大変順調と判断した。	A (A)																		
		④絵本の読み聞かせ、おはなし会などの実施	子どもが小さいときから読書に親しめる環境づくりを行うため、絵本の読み聞かせやおはなし会などを実施	●子ども図書館、地区図書館及び分館で、 ・毎月定期的に絵本の読み聞かせやおはなし会を実施。 【読み聞かせ・おはなし会実施状況】 <table border="1" style="margin: 5px 0;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>853回</td> <td>765回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>15,631人</td> <td>13,586人</td> </tr> </tbody> </table> ・クリスマス会などの季節ごとの行事を実施するなど、新型コロナウイルスの影響により回数は減少したものの、読書に親しむ環境づくりを行うことができたため、順調と判断した。 【読み聞かせボランティア登録数】 <table border="1" style="margin: 5px 0;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団体数</td> <td>36団体</td> <td>41団体</td> </tr> <tr> <td>個人</td> <td>12人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R元年度	回数	853回	765回	参加者数	15,631人	13,586人		H30年度	R元年度	団体数	36団体	41団体	個人	12人	17人	B (B)
			H30年度	R元年度																			
回数	853回	765回																					
参加者数	15,631人	13,586人																					
	H30年度	R元年度																					
団体数	36団体	41団体																					
個人	12人	17人																					
⑤(新)図書館における子ども向け相談窓口の充実	子どもたちが調べごとのために図書館へ来た時、気軽に相談できるように、子ども専用のレファレンス窓口を設け、調べ学習などが行いやすい環境を提供	●子ども図書館の受付カウンター2ヶ所にレファレンス窓口を設けるなど、各図書館で子どもの相談に応じる窓口を設け、調べ学習などで気軽に相談できる環境を引き続き提供できたため、順調と判断した。	B (B)																				

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価															
		⑥調べ学習用図書・資料及び「調べ方マニュアル」の充実	小・中学校と連携して、それぞれの児童・生徒に応じた調べ学習用の図書・資料や調べ方マニュアルを充実	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館ホームページに、調べ方マニュアルを掲載している。(小学生・中学生向け) ●各図書館で、図書館の利用方法や本の探し方についてのリーフレットやパスファインダーを作成したり、既存の資料で内容を更新したものを、来館した児童生徒に配布したりした。 ●各図書館で、夏休み行事として、調べ学習の一助となる講座や、読書感想文の書き方講座を実施した。 ●これらにより、調べ学習を支援することができたため、順調と判断した。 	B (B)															
		⑦ヤングアダルト向け図書・資料の充実	読書から遠ざかりがちなか・高校生のために、ヤングアダルト向け図書・資料を充実	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども図書館では、 ・ホームページにヤングアダルト向けのコーナーを開設 ・1F 閲覧室にヤングアダルトコーナーを設置し、ライトノベルや自己啓発、キャリア形成に役に立つ図書を充実 するとともに、各図書館でも、ヤングアダルトコーナーを設置し、同様の取組みを行うなど、ヤングアダルト層を取り込む環境づくりを行うことができたため、順調と判断した。	B (B)															
		⑧家読(うちどく)の推進	家庭教育向上の基礎となる親子のコミュニケーションづくりの手段の一つとして家読を推進するため、推薦図書の情報提供や家読コーナーを設置	<ul style="list-style-type: none"> ●地区図書館、分館において、家読コーナーを設置し、家読に適したおすすめ図書の紹介や展示に取り組んだ。 ●子ども図書館では、夏休みに保育所・幼稚園、学校で配布する読書カードに「おすすめ本」を掲載した。また館内に、特設コーナーをつくり、読書カード及び「おすすめ本」を展示した。 ●これらにより、家読の推進を図ることができたため、順調と判断した。 	B (B)															
		⑨(新)地域人材の育成	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども図書館では、下記の通り人材育成を目的とした講座を実施した。 【講座実施状況】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>読み聞かせボラ養成初級</td> <td>2回・41人</td> <td>2回・53人</td> </tr> <tr> <td>読み聞かせボラ養成中級</td> <td>1回・14人</td> <td>1回・17人</td> </tr> <tr> <td>ストーリーテリング</td> <td>1回・12人</td> <td>1回・13人</td> </tr> <tr> <td>ブックトーク</td> <td>1回・7人</td> <td>1回・6人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●地区図書館では、ボランティアとの意見交換会を開催するなど、子どもの読書活動を支える人材の育成に取り組むことができたため、順調と判断した。 		H30年度	R元年度	読み聞かせボラ養成初級	2回・41人	2回・53人	読み聞かせボラ養成中級	1回・14人	1回・17人	ストーリーテリング	1回・12人	1回・13人	ブックトーク	1回・7人	1回・6人	B (B)
	H30年度	R元年度																		
読み聞かせボラ養成初級	2回・41人	2回・53人																		
読み聞かせボラ養成中級	1回・14人	1回・17人																		
ストーリーテリング	1回・12人	1回・13人																		
ブックトーク	1回・7人	1回・6人																		
		⑩(新)図書館職員の育成	地区図書館で、読み聞かせボランティアなどを養成する講座が実施できるような、図書館職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども図書館では、福岡県立図書館など主催の研修に職員1名が参加し、読み聞かせ技能などのスキルアップを図ることができたため、順調と判断した。 	B (B)															

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価									
		⑪(新)地区図書館における区役所や市民センターなどとの連携	図書館職員や読み聞かせボランティアを市民センターや地域の子育てイベントなどに派遣し、子ども読書活動の推進につながる読み聞かせなどを積極的に実施	●子ども図書館や地区図書館において、引き続き、区役所との共催イベント、区役所の「親子ふれあいルーム」や市民センターでのイベントなどに、図書館職員や読み聞かせボランティアを派遣し、読み聞かせやおはなし会を行うことができたため、順調と判断した。	B (B)									
		地元ゆかりの作家作品の充実【再掲】(視点1③)	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催											
	(2) 学校における読書活動の支援	⑫学校向け団体貸出の拡充	小・中学校において、学習の一助とするために、図書・資料の学校への貸出を積極的に実施	●学校関係者が参加する学校図書館教育講習会で、学校向けサービスの一つとして、団体貸出を周知し、 <u>積極的な利用を呼びかける</u> などし、 <u>実績も昨年度より伸びた</u> ため、大変順調と判断した。 【団体貸出利用状況】	A (B)									
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出団体数</td> <td>1,367団体</td> <td>1,605団体</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>9,556冊</td> <td>9,771冊</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R元年度	貸出団体数	1,367団体	1,605団体	貸出冊数	9,556冊	9,771冊	
	H30年度	R元年度												
貸出団体数	1,367団体	1,605団体												
貸出冊数	9,556冊	9,771冊												
		⑬学校貸出図書セットの拡充	学校における読書活動や調べ学習などを推進するため、学年別・テーマ別に選んだ図書・資料を学級文庫や教材として使用する「学校貸出図書セット」を、より学校のニーズにあうように内容を充実	●子ども図書館では、令和元年度、「学校貸出図書セット」の拡充に取り組むことができたため、順調と判断した。 【学校貸出図書セット利用状況】	B (B)									
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出セット数</td> <td>75セット</td> <td>79セット</td> </tr> <tr> <td>貸出実績</td> <td>97件</td> <td>77件</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R元年度	貸出セット数	75セット	79セット	貸出実績	97件	77件	
	H30年度	R元年度												
貸出セット数	75セット	79セット												
貸出実績	97件	77件												
		⑭図書館司書や読み聞かせボランティアの学校などへの派遣	図書館司書や読み聞かせボランティアなどを学校に派遣し、調べ学習や読み聞かせなど、読書に関する取組みを支援	●各図書館で、幼稚園、保育所、小学校などに、図書館司書や読み聞かせボランティアを派遣した。 【学校等への派遣件数】	B (B)									
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>司書派遣</td> <td>5館16件</td> <td>2館10件17人</td> </tr> <tr> <td>ボラ派遣</td> <td>3館118件</td> <td>3館82件</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R元年度	司書派遣	5館16件	2館10件17人	ボラ派遣	3館118件	3館82件	
	H30年度	R元年度												
司書派遣	5館16件	2館10件17人												
ボラ派遣	3館118件	3館82件												
				●新型コロナウイルスの影響もあり、派遣件数は減ったものの、着実に取組み支援ができたため、順調と判断した。										

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価																		
		⑮(新) 学校関係者(教員、学校図書館職員など)の人材育成支援	子どもに一番身近な学校で読書推進活動を行う教員、学校図書館職員などに対して、図書館職員が専門的な研修を支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学校関係者が参加する学校図書館教育講習会において、学校貸出図書セットなど学校向けサービスの説明を行った。 ●<u>ブックヘルパー研修を2回(7月、2月)開催し、学校における読み聞かせボランティア研修を1回(9月)開催した。</u> ●これらにより、学校図書館職員などの育成支援を行うことができたため、大変順調と判断した。 	A (B)																		
		⑯ 子ども司書の養成と活用	<p>子どもたちの図書館への関心や読書への意欲を高めるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で働く司書の仕事を学習する講座を開催し、子ども司書を育成 ・その子ども司書たちが学校で、読書活動推進のリーダー役となることを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ●令和元年度は、子ども司書養成講座を夏休み期間中に5日間開催。講座終了後、受講生が各自の学校での活動の様子について報告した。 <p>【子ども司書養成講座参加状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td> <td>45人</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>10人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>55人</td> <td>51人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●さらに、<u>中高生自らが子ども図書館の企画・運営に携わる「ジュニア・サポーター」を新たに立ち上げる</u>など、リーダー役となる子どもの育成に取り組むことができた。 ※令和元年度ジュニア・サポーター登録者数25人(中学生8人、高校生17人) ●これらにより、子どもたちの図書館への関心や読書への意欲を大きく高めることができたため、大変順調と判断した。 		H30年度	R元年度	小学生	45人	35人	中学生	10人	16人	合計	55人	51人	A (B)						
	H30年度	R元年度																					
小学生	45人	35人																					
中学生	10人	16人																					
合計	55人	51人																					
		⑰ 小・中・特別支援学校児童生徒の読書感想文募集の実施	小・中・特別支援学校児童生徒が読書を通して得た喜びや感動を文書表現することで、ものの見方や考え方を深め、より豊かな感性を育むことを目的として、読書感想文募集を実施	<ul style="list-style-type: none"> ●読書感想文を募集し、市内の小中学生の約半数からの応募があった。 ●12月初旬の表彰式において、優秀な作品を表彰した。 <p>【読書感想文表彰実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>点数</td> <td>36,510点</td> <td>33,226点</td> </tr> <tr> <td>学校数</td> <td>188校</td> <td>89校</td> </tr> <tr> <td>優秀賞</td> <td>28点</td> <td>28点</td> </tr> <tr> <td>優良賞</td> <td>93点</td> <td>93点</td> </tr> <tr> <td>入選</td> <td>2,772点</td> <td>2,600点</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●これにより、子どもたちのより豊かな感性を育むことができたため、順調と判断した。 		H30年度	R元年度	点数	36,510点	33,226点	学校数	188校	89校	優秀賞	28点	28点	優良賞	93点	93点	入選	2,772点	2,600点	B (B)
	H30年度	R元年度																					
点数	36,510点	33,226点																					
学校数	188校	89校																					
優秀賞	28点	28点																					
優良賞	93点	93点																					
入選	2,772点	2,600点																					
		⑱ 小・中学校との連携	図書館と小・中学校との連携を図るため、図書館だよりの発行や小・中学生の図書館見学・職場体験の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●地区図書館、分館において、毎月「図書館だよりの発行や小・中学生の図書館見学・職場体験の実施」を実施した。 ●小中学生の図書館見学や職場体験を受入れた。 <p>【見学及び職場体験実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>見学</td> <td>14館71件3,182人</td> <td>13館84件4,175人</td> </tr> <tr> <td>職場体験</td> <td>7館19件29人</td> <td>9館44件154人</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R元年度	見学	14館71件3,182人	13館84件4,175人	職場体験	7館19件29人	9館44件154人	A (B)									
	H30年度	R元年度																					
見学	14館71件3,182人	13館84件4,175人																					
職場体験	7館19件29人	9館44件154人																					

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
				<p>●中央図書館において、展示スペースを学校図書館用に確保し、小中学校の図書委員などが作成した本の紹介などの作品を展示した。</p> <p>●このように、令和元年度は、<u>図書館見学や職場体験受入れ数も大きく伸びた</u>ため、大変順調と判断した。</p>	
<p>【内部評価の考え方】 子どもの読書活動推進の拠点施設となることを目的に設置された「子ども図書館」が、前年 12 月に開館したことを受け子どもの読書活動の推進が目に見える形で進んだ。特に、「学校向け団体貸出図書の利用者の大幅増」「ブックヘルパー研修や学校における読み聞かせボランティアの研修による学校図書館職員などの育成支援」「自ら子ども図書館の企画・運営に携わるジュニア・サポーターの立ち上げ」などが大きな成果である。また、「子ども向け相談窓口の充実」や「調べ学習のための資料の充実」、「図書館職員や読み聞かせボランティアの派遣」や「小中学校との連携」なども継続的かつ安定的に行うことができたことから、順調であると判断した。</p>					
<p>【外部評価】</p>					

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
<p>4. 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館</p>	(1) 情報化への対応	① Wi-Fi の整備	スマートフォンなど携帯端末の普及が進んでいるため、図書館の Wi-Fi 環境を整備	●中央・八幡・八幡西・小倉南図書館に続き、平成 30 年度に開館した子ども図書館でも公衆無線 LAN を設置し、安定的に事業を継続したことから、順調と判断した。	B (B)
		②中央図書館、地区図書館、子ども図書館におけるホームページの充実	利用者が見やすく、使いやすいホームページとなるように、 ・子ども図書館の開館にあわせ、ホームページを開設 ・中央図書館や地区図書館のホームページの見直し	●従前のホームページは市のサーバーと外部サーバーを利用したページが混在するなど利用者が使いにくい仕様となっていた。そのため、令和元年 11 月に外部サーバーを利用した <u>個別ホームページを構築</u> したことで、利用者の見やすさ使いやすさが格段に向上したことから、大変順調と判断した。	A (B)
		③郷土資料のデジタル化への検討	資料のデジタル化に関する情報収集や研修などを行い、郷土資料のデジタル化を検討	●中央図書館では、平成 21 年度に、所蔵する郷土資料の一部(門司新報、福岡県布達集、小笠原文庫、古地図、写真など)をデジタル化し、平成 30 年度までに民間団体と協力し、ガラス乾板のデジタル化を行うことで、利用者の便に供している。 ●令和元年度は、今後、デジタル化すべき資料の選定方針などの検討を開始したが、具体的な方向性を定めるまでに至らなかった。 ●これらの状況を鑑み、やや遅れていると判断した。	C (C)

内部評価
A
 (B)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価									
	(2) ニーズに応じたサービスの提供	<p>④ 高齢者などあらゆる人が利用しやすいサービスの充実</p> <p>⑤ 子ども用トイレや授乳室の設置</p> <p>⑥ (新) 図書館以外での本の返却</p>	<p>バリアフリー化や大活字本の充実を図るなど、高齢者を含め、あらゆる人が利用しやすいサービスの充実</p> <p>子どもと一緒に利用しやすい図書館づくりを目指すため、図書館整備にあわせ、子ども用トイレや授乳室を整備</p> <p>利用者の利便性の向上を図るため、駅など図書館以外で本を返却できるように、返却ボックスを設置</p>	<p>●中央図書館において、障害者サービスに関する職員研修として、<u>初めて障害のある方との意見交換</u>を行った。</p> <p>●中央図書館では、外国人市民に対するアンケート調査やガイドツアー、「やさしい日本語」及び外国語の利用案内リーフレット作成、「やさしい日本語」で書かれた図書資料の収集など、<u>多文化サービスの取組みを開始</u>した。</p> <p>●また、中央図書館において、図書館職員はもちろん一般利用者の方も対象に、外国人市民との接し方などについて理解を深める講演会を開催した。</p> <p>●各図書館において、高齢者や弱視者も読みやすい資料として「大活字本」収集の充実を図った。</p> <p>●中央図書館、小倉南図書館、八幡図書館では、館内に拡大読書機を設置し、中央図書館、若松図書館などで拡大鏡やリーディングトラックの館内貸出を行っている。</p> <p>●各館において、障害のある方に配慮した資料(LLブック、点字絵本、朗読CD、手話付きDVDなど)の収集を行った。</p> <p>●各館において、外国語資料の収集、提供を行った。</p> <p>●子ども図書館では、寝ころびスペースやソファ、ベンチなど多様な閲覧スペースを提供した。</p> <p>●これらにより、高齢者などあらゆる人が利用しやすい図書館サービスの充実に努めたため、大変順調と判断した。</p> <p>●子ども用トイレや、授乳及びおむつ替えができる赤ちゃんの駅を引続き適切に管理したことから、順調と判断した。</p> <p>●小倉駅構内及び黒崎駅に隣接するコムシティ入口の2ヶ所に返却ボックスを設置(平成29年7月)し、年末年始を除く毎日、利用に供している。</p> <p>【返却ボックス利用状況】</p> <table border="1" data-bbox="932 1715 1351 1850"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小倉</td> <td>26,488冊</td> <td>27,593冊</td> </tr> <tr> <td>黒崎</td> <td>9,970冊</td> <td>10,819冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>●令和2年3月は、新型コロナウイルス感染症の影響で図書館は臨時休館したが、返却ボックスは例月の6割程度の利用があり、年間を通じては、昨年度より多くの利用があった。</p>		H30年度	R元年度	小倉	26,488冊	27,593冊	黒崎	9,970冊	10,819冊	<p>A (B)</p> <p>B (B)</p> <p>A (A)</p>
	H30年度	R元年度												
小倉	26,488冊	27,593冊												
黒崎	9,970冊	10,819冊												

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価						
				<p>●これらのことから、駅周辺への返却ボックスの設置により、利用者の利便性が向上しているとみられるため、大変順調と判断した。</p>							
		⑦CD・DVD資料の貸出とその充実	図書館整備にあわせて、市民から要望のあるCDやDVDなど視聴覚資料の貸出コーナーを設置	<p>●平成24年度以降、各地区館の新設・改修などに併せて、視聴覚資料(CD・DVD)の貸出を行える館を増やしており、令和元年度末現在、中央図書館、子ども図書館、地区館4館(小倉南、八幡、八幡西、戸畑)で館外貸出や館内閲覧の利用に供している。</p> <p>●特に子ども図書館では、家族や友だちと一緒に視聴できるスペースの確保も行っている。</p> <p>【CD・DVD貸出点数(全館計)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出点数</td> <td>127,637点</td> <td>111,181点</td> </tr> </tbody> </table> <p>●これらにより、視聴覚資料の充実・活用に取り組むことができたため、順調と判断した。</p>		H30年度	R元年度	貸出点数	127,637点	111,181点	B (B)
	H30年度	R元年度									
貸出点数	127,637点	111,181点									
		⑧学習活動の場、設備、図書・資料などの提供	読書会や郷土史会など、市民の学習活動を推進するため、図書館の施設、設備、図書・資料などを提供	<p>●各館において、読書会、郷土史会、読み聞かせボランティアグループの勉強会などに会場を提供し、活動の支援を行った。</p> <p>●子ども図書館では、福岡教育大学附属小倉中学校の校外学習について、まとめ方のアドバイスなどを行うとともに、学習成果の展示場所を提供するなど、協力を行った。</p> <p>●各館においても、市民団体やNPO、学生などに対し、イベント実施や調査研究のための資料提供や関連本の展示などの協力を行った。</p> <p>●これらにより、市民の学習活動に対する支援に努めたことから、順調と判断した。</p>	B (B)						
	(3)親しみやすい図書館づくり	⑨(新)くつろいで読書のできる環境の充実	<p>・カフェテリアを設けるなど、くつろいで読書ができるように図書館の読書環境を整備</p> <p>・カフェテリアが街のにぎわいづくりに寄与するように、イベントなどの企画を検討</p>	<p>●八幡西・戸畑・中央・小倉南図書館内のカフェの運営を継続した。</p> <p>●前年度に整備した子ども図書館内のリフレッシュコーナーを引き続き適切に管理した。</p> <p>●中央図書館のカフェでは北九州市立大学生とのコラボ企画として、絵本「しろくまちゃんホットケーキ」「はらぺこあおむし」に登場したメニューを提供し、多くの方に喜ばれた。</p> <p>●これらのことから、大変順調と判断した。</p>	A (A)						

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		⑩(新)市立図書館への来館のきっかけづくりの提供	これまで図書館に来ていない人が来館するきっかけとなるように、図書・資料の配架や開催する講座、イベントなどを見直し	<p>●中央図書館では、<u>外国人市民やその支援者などこれまで図書館にあまり来館していなかったと思われる層を対象に、講演会やガイドツアーを実施した。</u></p> <p>●子ども図書館では、読書履歴を記録する「読書通帳」の運用を継続しただけでなく、開館1周年記念イベントとして、アニメーション映画監督の細田守氏を招いての講演会の実施【参加者 93人】</p> <p>・同じく映画監督の樋口真嗣氏を招いての講演会の実施【参加者 82人】</p> <p>・<u>映画化された児童文学コーナーの設置</u>にも取り組んだ</p> <p>●八幡図書館では、近隣の公共施設や店舗と協働したイベント「やはたアートフォレスト」の開催により、図書館を含めた地域の回遊性を高める企画を実施した。</p> <p>●小倉南図書館では「国定公園平尾台の魅力」、八幡西図書館では「令和と大嘗祭」、戸畑図書館では「宗左近の転換点」といった、地域にちなんだ話題や時事に関心の高いきごとをテーマにした講演会を行うなど、各館において、市民の関心を呼ぶ多彩な行事を実施した。</p> <p>●このように、新たな取組みも含め、来館を促進する取組みを戦略的に実施することができたため、大変順調と判断した。</p>	A (B)
<p>【内部評価の考え方】 市のサーバーと外部サーバーを利用したページが混在するなど利用者が使いにくい仕様となっていたホームページを改め、利用者にとって見やすく使いやすいホームページを構築できたことは、情報化への対応という視点から大きな意味があった。特に、新しいホームページは、以前よりも機動性に優れた作りとなっており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という予期せぬ事態に襲われる中で、図らずも威力を発揮した。 また、外国人市民や障害のある方など、図書館協議会をはじめ各方面から対応強化を求められていた方々に対するサービスのあり方について、具体的に行動を起こすことができたことは大きな収穫であった。 これらのことから、大変順調であると判断した。</p>					
<p>【外部評価】</p>					

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価															
5. 市民参画型図書館 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 内部評価 A (B) </div>	(1) ボランティアの育成と活用	① 読み聞かせボランティア養成講座の充実	読み聞かせボランティアの専門性を高めるため、ストーリーテリングやブックトークなどの技術を学ぶ講座を実施	<p>●子ども図書館において、下記の通り子どもの読書活動を支える人材の育成に取り組むことができたため、順調と判断した。</p> <p>【講座実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>読み聞かせボラ養成初級</td> <td>2回・41人</td> <td>2回・53人</td> </tr> <tr> <td>読み聞かせボラ養成中級</td> <td>1回・14人</td> <td>1回・17人</td> </tr> <tr> <td>ストーリーテリング</td> <td>1回・12人</td> <td>1回・13人</td> </tr> <tr> <td>ブックトーク</td> <td>1回・7人</td> <td>1回・6人</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R元年度	読み聞かせボラ養成初級	2回・41人	2回・53人	読み聞かせボラ養成中級	1回・14人	1回・17人	ストーリーテリング	1回・12人	1回・13人	ブックトーク	1回・7人	1回・6人	B (B)
			H30年度	R元年度																
		読み聞かせボラ養成初級	2回・41人	2回・53人																
		読み聞かせボラ養成中級	1回・14人	1回・17人																
ストーリーテリング	1回・12人	1回・13人																		
ブックトーク	1回・7人	1回・6人																		
② 図書館ボランティアの育成	市民が図書館運営の担い手となるように、図書館において館内案内や配架などの図書館業務を行う図書館ボランティアを育成	<p>●中央図書館で、毎年2回、図書館ボランティア養成講座を開催し、ほとんどの終了者は、希望の館においてボランティア活動に参加している。</p> <p>【ボランティア養成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>養成講座修了者</td> <td>38人</td> <td>57人</td> </tr> <tr> <td>ボラ登録者</td> <td>292人</td> <td>322人</td> </tr> </tbody> </table> <p>●これらにより、市民の力を図書館運営に活かすボランティアの育成が継続的に図られていることから、順調と判断した。</p>		H30年度	R元年度	養成講座修了者	38人	57人	ボラ登録者	292人	322人	B (B)								
	H30年度	R元年度																		
養成講座修了者	38人	57人																		
ボラ登録者	292人	322人																		
③ (新)ブックヘルパーの人材育成支援	学校図書館で図書・資料の整理、補修や読み聞かせなどを行うブックヘルパーが活動しやすくなるように、図書館職員が研修を支援するなど、学校における読書活動に協力	<p>●令和元年度は<u>ブックヘルパー研修を初開催</u>(計2回)することができたため、大変順調と判断した。</p> <p>【ブックヘルパー研修実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1回</th> <th>第2回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>70人</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>応募者数</td> <td>140人</td> <td>66人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【研修内容】推進事業、学校図書館の基本事項、校内における配慮事項の説明及び実践発表(2校)</p>		第1回	第2回	参加者数	70人	66人	応募者数	140人	66人	A (B)								
	第1回	第2回																		
参加者数	70人	66人																		
応募者数	140人	66人																		
④ 読み聞かせボランティアバンクの充実	読み聞かせなどを希望する子育て施設や学校に対し、ボランティア情報を迅速かつ的確に提供するため、 ・読み聞かせボランティアバンクの充実 ・地区図書館ごとのボランティアバンクの設立の検討	<p>●地区図書館や学校などで活動する読み聞かせボランティアを整理し、<u>ボランティアバンクを再構築</u>するとともに、<u>その情報を各地区図書館と共有</u>するなど、子どもの読書活動推進のためのネットワークの強化を図ることができたため、大変順調と判断した。</p> <p>【読み聞かせボランティア登録数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団体数</td> <td>36団体</td> <td>41団体</td> </tr> <tr> <td>個人</td> <td>12人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度	R元年度	団体数	36団体	41団体	個人	12人	17人	A (B)								
	H30年度	R元年度																		
団体数	36団体	41団体																		
個人	12人	17人																		

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		地域人材の育成【再掲】(視点3⑨)	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施		
	(2)開かれた図書館づくり	⑤時代に即した図書館づくりを推進するための図書館協議会の充実	多様化する図書館へのニーズに対応し、効率的で効果的なサービスが提供できるように、図書館協議会の充実に努め、時代に即した図書館づくりを推進	<ul style="list-style-type: none"> ●これまで以上に自由闊達な議論が展開される図書館協議会とするため、 ・北九州市立図書館の状況をより深く知ることを目的に、<u>図書館協議会を地区図書館を会場に開催し、会議終了後には施設見学を実施</u> ・公立図書館以外の図書館の実情を知ること目的に、<u>図書館協議会メンバーで大学図書館の視察・見学を実施</u>するなど、今までになりに取り組みを行い図書館協議会のより一層の充実に努めたことから、大変順調と判断した。 	A (B)
		⑥運営に関する評価の実施	図書館運営に関する評価を行い、広く公表するとともに、運営の改善を実施	<ul style="list-style-type: none"> ●平成25年度から図書館評価制度を導入し、市のホームページに掲載するとともに運営の改善を進めている。 ●特に、令和元年度は前年度までに図書館協議会や教育委員会会議からいただいた意見を参考に、図書館の基本目標に対する達成状況と総合評価がより分かり易くなるよう、図書館評価のやり方そのものの抜本的な見直しに取り組んだことから、順調と判断した。 	B (B)
<p>【内部評価の考え方】 初めてのブックヘルパー研修の開催や、読み聞かせボランティアバンクの再構築及びその情報の地区館との共有など、子ども図書館を拠点とした取り組みに大きな前進があった。また、市民の代表が参画する図書館協議会においても、会議がこれまで以上に自由闊達なものとなるよう運営方法の見直しを行った。 このように、戦略的に新たな取り組みを推進することができたことから、大変順調であると判断した。</p>					
<p>【外部評価】</p>					